

せいじ 便り

第5号

揺るぎなき挑戦!!

成人「日本」の責任と信頼
議員定数削減?

暫定税率は必要?

消費者と企業の信頼関係を再構築!

成人「日本」の責任と信頼

議員定数削減?

「平成20年」。「平成日本」も、いよいよ「成人」といえば、大人としての「信頼」を得、他方で一人前として「責任」を求められる年齢です。

我が国にとって、「責任」という意味では、①国際社会での責任、そして②次世代に対する責任、が重要です。

テロとの戦いを必死に続ける国際社会の一員として、我が国も応分の責任を果たさなければなりません。インド洋での給油活動はその一環であり、先般、新テロ特別措置法を成立させ、早期再開へ準備を進めています。

また、「次世代に対する責任」を取り戻す努力を継続しなければなりません。800兆円もの借金を抱える我が国は、更に毎年25兆円に及ぶ借金を続けています。この借金は子や孫の世代の負担となります。少子高齢社会の到来により次世代の負担増加が避けられないなかで、更に、多くの借金負担を押し付けようとしているのです。今年も、**行政改革の徹底**を図り、借金体質脱却に向けて努力してまいります。

「責任」を果たすためには、企業活動、教育、行政など各分野において「信頼」を取り戻すことも必要です。何よりも政治の信頼回復が求められています。政治資金の透明化や政策決定過程の透明化はもちろんのこと、**議員定数の削減**も視野に行動していきたいと思えます。

暫定税率は必要?

「無駄な道路を作るべきか?」、当然、答えはNo。しかし、「必要な道路は作るべきか」と問われれば、どうでしょうか。実際、道路網整備は諸外国に遅れています。例えば、国際競争力上重要な空港・港湾と高速道路との10分アクセス率

は、欧米で約90%であるのに、我が国では6割台です。

道路というと、地方の交通量の少ない立派な道路を想像しがちです。しかし、東京を含む首都圏こそ、道路を必要としています。

東京の環状道路の整備率は僅かに24%、自動車の平均運行速度は

時速10キロ台です。世界の大都市の整備率は軒並み80%を上回り、ニューヨークでさえ平均運行速度が30キロ台です。不便さは一目瞭然、経済効率性は低く、環境破壊も深刻です。

首都圏の生活道路の整備も不可欠です。多摩では、登下校に危険を伴う劣悪な生活道路が多数放置されています。電線地中化、開かずの踏み切り対策、やるべきことは山積みです。道路財源は、こうした課題のためにも必要です。

道路の維持修繕も重要です。今後、高度経済成長期に建設された道路が急速に老朽化します。我が国に先んじて道路が老朽化したアメリカでは、



80年代には道路施設が劣悪な状態になり、「荒廃するアメリカ」と表されました。その後、維持管理予算を増強し、補修も進んだかに見えたのですが、昨年8月のミネアポリスでの橋の崩落は記憶に新しいところです。「必要」



な道路は整備し、維持修繕も徹底していく。そのための財源は確保していく必要があります。そもそも、暫定税率を廃止すれば、既に多額の赤字を抱えているもの税収が失われます。とりわけ、地方自治体では1兆7000億円もの歳入が失われ、歳入欠陥が生じる自治体も少なくありません。

そのため、政府・与党として、自動車関連税制の暫定税率維持を決めています。ガソリン価格高騰の中で、苦渋の選択です。

もちろん、ガソリン高騰対策は別途講じねばなりません。既に、昨年末に原油高騰対策を取りまとめ、高速道路料金の引下げ（深夜割引3割引→4割引）やバイオ燃料の開発・導入の促進を決定しています。今後、ガソリン価格の動向を見ながら、必要ならば補正予算の編成も辞さず、更なる対応もしていきます。なお、野党が真面目で責任ある議論に応じ、意見の一致が得られれば、暫定税率の短期間・一時的凍結も検討課題となるでしょう。

しかし、民主党は「暫定税率を廃止する」と一方で主張しながら、同時に「道路建設の規模は維持する」との立場。いったいぜんたい財源はどうするのでしょうか。しかも、「ガソリン価格を安くする」と東京では言いながら、地元の集会では逆のことを言う議員もいるほどです。既に民主党は財源の裏づけのない15兆円以上のバラマキ・空手形を宣言しています。加えて、暫定税率を廃止しても道路は作る・・・更なる空手形。地球環境保護にも逆行するものであり、是非、参議院第一党として責任ある態度を示していただきたいと思っています。

消費者と企業の信頼関係を再構築！

昨年は企業による「偽装」がクローズアップされた一年でした。特に注目を集めたのは、「食品偽装問題」です。

「食品偽装問題」では、名の知れた大企業から、歴

史ある老舗の御菓子屋や料亭まで、幅広い範囲で、食品という消費者の生命・身体に大きな影響を持つ産業のあり方が問題となりました。政治の最大の使命は、皆様の安全・安心を守ること。政府・与党として、問題企業に対する徹底した追及を行い、説明を求めると同時に、必要な制度改正にも積極的に取り組んでまいりました。その結果、昨年末には、不正表示の監視・取締体制を強化するため、農林水産省に「食品表示特別Gメン」を新設することが決定されました。また、消費者の加工食品表示に対する信頼向上を図るため、原料供給者についてもJAS法上の表示を義務付けることなども決定されました。こうした対応に加えて、食品安全など消費者行政について、現在の縦割りを廃して一元化を進めていく必要があります。自民党・消費者問題調査会のメンバーの一人として、深みのある議論を展開し、消費者の安全確保に万全を期してまいります。

さて、食品偽装を行った企業の方々のなかに、「もったいない」と思ったから」と言った方がいました。ノーベル平和賞受賞者であるマータイ女史により世界的に有名となった「もったいない」の精神。日本人の誇るべき精神です。しかし、「もったいない」精神を、自分達の私利私欲のために歪んで解釈することは許されません。

消費者の安心・安全を守ることが政治の責務ですが、そもそも日本経済の強みは、消費者と企業の強い信頼関係にあります。今一度、企業が消費者の安心・安全に積極的に取り組むことで、消費者からの信頼を回復し、消費者が安心して生活できるような社会を導くことこそ、日本経済の活性化には不可欠です。消費者と企業が強い信頼関係で結ばれた活力ある経済社会の実現に向けて、政治の世界から側面支援していききたいと思います。



木原せいじ事務所

■国会事務所 〒100-8982
東京都千代田区永田町2-1-2
衆議員第2議員会館606号室
TEL: 03-3508-7606
FAX: 03-3508-3986

■地元事務所 〒189-0013
東京都東村山市栄町2-22-13
松岡ビル2階
TEL: 042-392-4105
FAX: 042-392-4106

選挙区



ボランティアを募集しています！

事務所内における事務、ポスター貼り、各種広報物の配布などお手伝いいただけるボランティアを募集しています。どんな事からでもかまいません。政治に興味があって、木原誠二の政治活動を手伝ってみたいと思われる方は是非ご連絡ください。



国会見学に行きませんか？

木原せいじ事務所では、随時、国会見学を受け付けています。友達や仲間とお誘い合わせの上、是非ご来館ください。少人数からでもお気軽にご相談いただければ結構です。テレビで報道される国政の生の現場をご案内します。



木原せいじプロフィール



- ・私立武蔵中学・高校、東京大学法学部卒業
- ・大学時代はテニスで全国選抜3位
- ・平成5年大蔵省（現財務省）入省、主計局、大臣官房、国際局課長補佐、税務署長歴任
- ・その間、英国大蔵省出向（初代）
- ・平成17年9月 衆議院選挙当選
- ・現在、厚生労働委員会、内閣委員会、拉致特別委員会、各委員。党では、国際局長、青年局長、女性局長、学生部参与。
- ・趣味はテニス・ピアノ・散歩。座右の銘「至誠通天」。
- ・著書「英国大蔵省から見た日本」（文春新書）